

2016年1月19日

栃尾地域の歴史
～建造物と伝説を観光に生かすには～

平成27年度今瀬政司ゼミナールⅣ卒業論文

長岡大学経済経営学部人間経営学科4年

12M016 澤井 芳秀

目次

I 調査概要 「栃尾地域の歴史~建造物と伝説を観光に生かすには~」

1. 調査の背景及び目的.....	p.3
2. 調査方法.....	p.3
3. 調査個所.....	p.3
4. 調査個所の歴史年表.....	p.5

II 栃尾地域の歴史遺産と観光地としての現状・課題

1. 静御前の墓	
1. 1 静御前の墓の所在地.....	p.6
1. 2 全国に存在する静御前の伝説.....	p.6
1. 3 栃尾に伝わる静御前の伝説.....	p.6
1. 4 静御前の墓についての観光地としての課題.....	p.7
1. 5 観光客増員へ向けての取り組み.....	p.7
2. 茨木童子の里	
2. 1 茨木童子とは.....	p.8
2. 2 鬼とはどういった存在なのか.....	p.8
2. 3 栃尾に伝わる茨木童子の言い伝え.....	p.8
2. 4 茨木童子に関する祭「鬼ぎりまつり」.....	p.9
2. 5 新潟県以外に伝わる茨木童子の伝説.....	p.9
2. 6 茨木童子の出生地の根拠.....	p.9
2. 7 地域おこしとしての茨木童子.....	p.9
2. 8 「茨木童子の里」地域おこしの改善案.....	p.10
3. 菅原道真	
3. 1 菅原道真公と菅原神社.....	p.11
3. 2 栃尾の菅原神社の由来.....	p.11
3. 3 菅原道真公に関係のある神社.....	p.11
3. 4 栃尾の菅原神社の特徴.....	p.12
3. 5 栃尾の菅原神社の観光客.....	p.12
4. ほだれ大神	
4. 1 ほだれ大神に関する調査.....	p.13
4. 2 ほだれ大神とは.....	p.13
4. 3 ほだれ大神に関する記述.....	p.13
4. 4 全国に存在する性器崇拝「田縣神社」と「大縣神社」.....	p.14
4. 5 巻掘神社の金勢様.....	p.14

4. 6 ほだれ祭り	p.15
5. 稲荷信仰	
5. 1 栃尾に伝わる狐に関する信仰「稲荷信仰」	p.16
5. 2 狐憑きとはなんなのか	p.16
5. 3 狐憑きの発症原因.....	p.16
6. 秋葉三尺坊	
6. 1 秋葉三尺坊はどのように誕生したのか.....	p.17
6. 2 生前に神格化された例	p.18
6. 3 栃尾の秋葉神社	p.18
7. 上杉謙信	
7. 1 栃尾城跡	p.19
7. 2 上杉謙信の栃尾城入城までの経緯	p.20
7. 3 上杉謙信の旗揚げ.....	p.20
III 栃尾をより良くするために ～観光地としての栃尾～	
1. 観光客を呼び込むためには.....	p.21
2. 観光客増加への取り組み① ～ツアー企画の体制整備～	p.21
3. 観光客増加への取り組み② ～祭りに合わせての宣伝～	p.22
4. 観光客増加への取り組み③ ～建造物の印象に残る工夫～	p.22
■引用文献・参考文献一覧	p.23

I 調査概要 「栃尾地域の歴史 ～建造物と伝説を観光に生かすには～」

1. 調査の背景及び目的

長岡市栃尾地域には、その地域に住んでいる人にしかあまり知られていない寺社仏閣などの歴史的な建造物や伝説が多く存在している。それらの中には、有名な歴史上の人物にまつわるものも多く存在している。また、歴史的遺産と言えるものも多く残っている。例をあげると、静御前の墓、茨木童子の出生地としての言い伝えが残る地域、菅原神社、上杉謙信の旗上げの地などのものである。

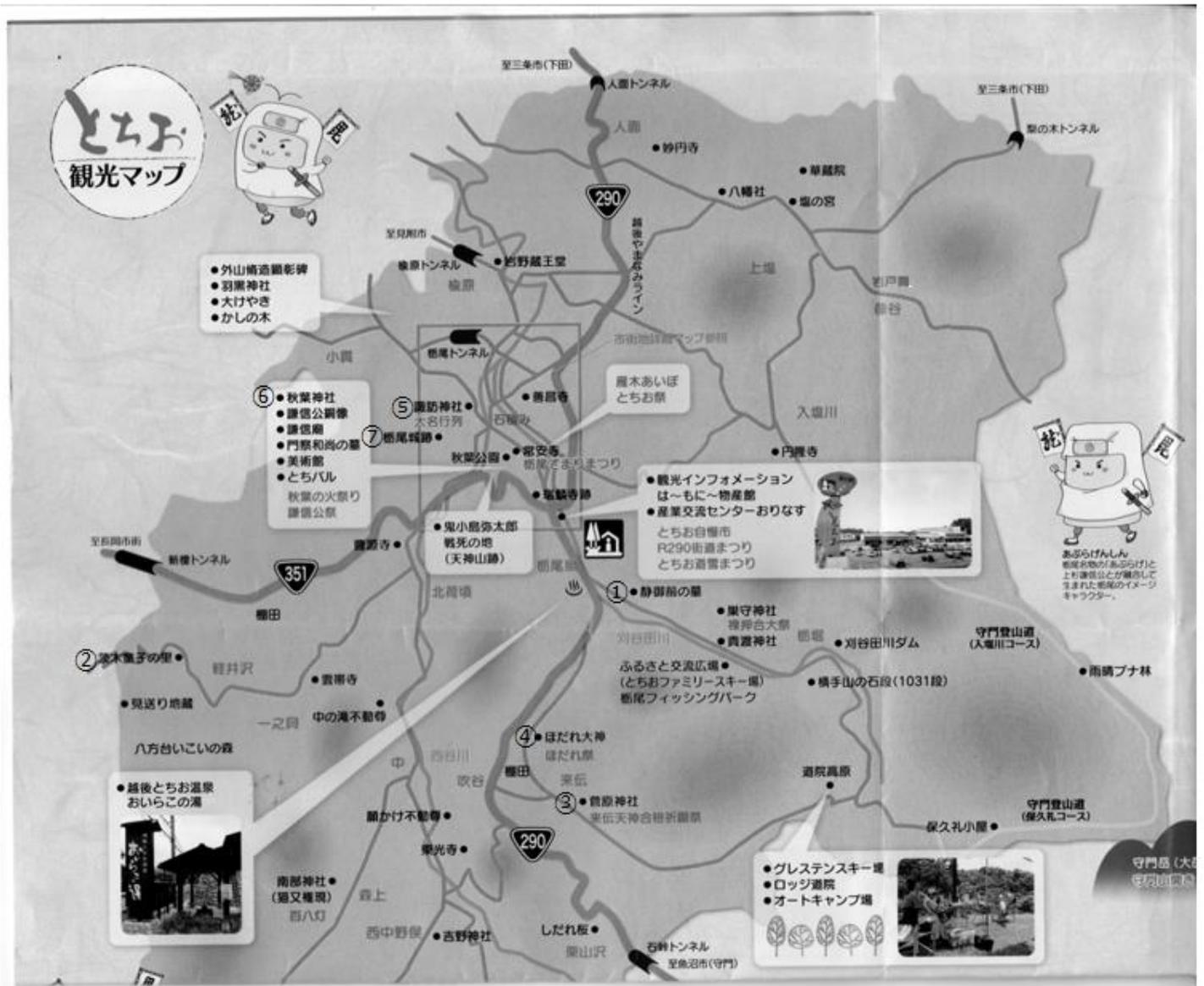
今回の調査の背景となったこととして、栃尾地域にはこうした多くのPRできる観光資源があるにも関わらず、一部の観光地では、観光客の数が減少しているという話を栃尾観光協会の方に伺ったことがある。そういった状況を改善していくためには、こういったPRをしていけばいいのか、また、年間の観光客が一定数確保できている建造物についても、より観光客数を増やすにはこういった取組みが重要になってくるのかをまとめる。

2. 調査方法

はじめに、実際にそれぞれの建造物に足を運び、どういった場所にその建造物が建てられているのか、あるいは伝説が残っているのか、筆者自身の目で確かめる。その後、ヒアリング調査をして、それぞれの建造物や伝説についての観光客の現状、それらに関する情報などを把握していく。そこから、現在の課題を挙げていき、今後どうすれば観光客の増加が見込めるかをまとめる。

3. 調査箇所

今回調査をする建造物及び伝説は以下の通りである。
それぞれの建造物や伝説がある場所が分かりづらい為、次ページの地図も合わせて参照して頂きたい。なお、地図については長岡市栃尾支所商工観光課作成のものを使用させて頂いた。地図に書いてある番号の場所に建造物が建てられている。



- ・ ① 静御前の墓
- ・ ② 茨木童子の里
- ・ ③ 菅原神社
- ・ ④ ほだれ大神
- ・ ⑤ 稻荷信仰（諏訪神社境内社）
- ・ ⑥ 秋葉三尺坊（秋葉神社）
- ・ ⑦ 上杉謙信（枳尾城跡）

4. 調査箇所の歴史年表

今回、調査した建造物は歴史の古いものが多い。こういった歴史の流れがあるのか、見やすいように年表にまとめた。

778 年（奈良時代）	周国誕生。	Ⅱ. 6 p.17 参照
805 年（平安時代）	周国、迦楼羅天へと変身する。（秋葉三尺坊。）	Ⅱ. 6 p.17 参照
806 年（平安時代）	茨木童子誕生。	Ⅱ. 2 p.8 参照
845 年（平安時代）	菅原道真公誕生。	Ⅱ. 3 p.11 参照
903 年（平安時代） 3 月 26 日	菅原道真公死去。	Ⅱ. 3 p.11 参照
1190 年（鎌倉時代） 4 月 28 日	栃堀にて静御前死去。（静御前の死に関しては諸説ある。）	Ⅱ. 1 p.6 参照
1530 年（戦国時代）	上杉謙信誕生。	Ⅱ. 7 p.20 参照
1543 年（戦国時代）	上杉謙信栃尾城入城。初陣を飾る。	Ⅱ. 7 p.20 参照
1776 年（江戸時代）	現在の秋葉神社が建てられる。	Ⅱ. 6 p.17 参照
1979 年（昭和 54 年）	第一回ほだれ祭開催。	Ⅱ. 4 p.13,15 参照

II 栃尾地域の歴史遺産と観光地としての現状・課題

1. 静御前の墓

前述したように栃尾地域には、さまざまな建造物と伝説が存在している。この項では栃尾に存在する、「静御前の墓」と、伝わる伝説について取り上げる。

1. 1 静御前の墓の所在地

静御前といえば、源義経の妾である。静御前の墓は、栃尾地域の長岡市栃堀に存在している。静御前の墓についての詳細な看板はなく、簡単な看板が道路脇にあるのみで、見落としてしまうとわからなくなってしまうような所に存在している。お墓自体も坂道の途中にあり、ひっそりとしたところに建っている。

1. 2 全国に存在する静御前の伝説

静御前の伝説には様々ものが存在しており、生没年は不明となっている。栃尾以外にも静御前が亡くなった場所として有名な所は全国に多数ある。例を挙げてみると、岩手県宮古市鈴久名にある鈴ヶ神社では、「静、二人目の子供を宿していたが、難産であったため、母子ともに命を落とす。」¹ とある。埼玉県久喜市栗橋の伝説では、「文治5年9月15日（1189年）久喜市伊坂（旧村名、静村）にて悲恋の死を遂げました。」² とある。

1. 3 栃尾に伝わる静御前の伝説

このほかにも様々な伝説があるが、栃尾に伝わる伝説では、平泉にいる義経を追って栃堀の地にたどりついたが、長旅の疲れから静御前は床に伏せ、栃堀で亡くなり、従者が里人の手を借りて栃堀の地に埋葬されたと伝わっている。³ ちなみに、静御前の墓の傍には静御前の供養塔も建っている。供養塔のそばには説明書きの看板が立っており、その記述によると、この供養塔は、明治時代の末に刈谷田川の対岸の小向村に住んでいた福王子セイという十六歳の娘が、静御前の墓の傷みが進むことを悲しみ、自らが織物を織って稼いだお金で静御前の墓を立て直そうと決意したことに起因して建てられた。しかし、一心不乱に織物を織り始めたセイは、それから二年後に十八歳の若さで病没してしまい、セイの父親である長右衛門が、セイの志をつぎ、周囲の人たちの協力を得て供養塔を建立したという。

栃尾地域には、他にも源義経にまつわる伝説が残っており、静御前の墓から刈谷田川対岸の赤谷を眺めると、那須与一が住んだという館跡「古戸ヶ池」があるが、こちらは残念ながら現在は水田になってしまっている。

¹ [引用文献] 「静御前と鈴ヶ神社」

<http://sky.geocities.jp/shizukagozenmaihime/top01.htm> (2015.11.19 閲覧)

² [引用文献] 「静御前の墓・静桜」久喜市観光協会

http://www.kurihashi-guide.jp/cn_tour_guide/sizuka.html (2015.11.19 閲覧)

³ [参考文献] (2015.4.1) 「源 義経の愛妾「静御前の墓」」長岡市ウェブサイト

<http://www.city.nagaoka.niigata.jp/kankou/rekishi/shiseki/sizukagozen.html> (2015.11.19 閲覧)

1. 4 静御前の墓についての観光地としての課題

栃尾観光協会の方に伺った話によると、詳細な人数は数えていない為わからないが、静御前の墓を訪れる観光客はあまり多くないという。NHK大河ドラマ「義経」が放送されていた当時は、観光客が増えていたが、一過性のものであったという。また、静御前の墓はバスが入りづらい所に建てられている為、観光バスなどに乗り、大人数で行くには向いていない。これらのことから、観光バス以外で静御前の墓へ行きやすくする工夫や、一過性ではなく、一定の観光客を期待できる環境を整備することが課題であるといえる。

1. 5 観光客増加へ向けての取り組み

第一に、「栃尾の静御前の墓」の正当性をより強く推していくことである。前述の通り、全国には静御前が亡くなったと伝わる地や、静御前の最期に縁のある地がいくつもある。そういった中で「栃尾の静御前の墓」のアピール材料となるものは、1. 3 で述べた那須与一が住んだという館跡「古戸ヶ池」である。静御前に纏わるエピソードだけでなく、静御前に関係がある人物である、那須与一に纏わるエピソードが加わることで、お互いの信憑性はより高いものとなる。墓自体も苔が生えており、かなり年季が入っている為、本物である可能性は高いと見られる。勿論、他の場所に存在する静御前の墓にも、分骨してお骨がはいっている可能性もあるため、一概に偽者であるともいえない。だが、PR に使っている要素は十分に持っている為、活用していく必要があるであろう。

観光客の増加の為には、建造物の存在を知ってもらうことが重要である。存在を知らない事には、「観光地に行く」という行動がうまれないからである。信憑性の高さを合わせて認知してもらうことで、来客の増加を期待できる。

第二に、観光バス以外での静御前への行き方の確立だ。一度に静御前へ向かう人数を絞り、必要に応じて自動車静御前の墓への送迎を行うことで解決できる。以上のことが対策としてあげられる。



図 1

静御前の墓。
あまり目立たないところに建てられている。

2. 茨木童子の里

2. 1 茨木童子とは

「茨木童子」とは、平安時代に大江山を本拠に京都の町を荒らしまわったとされる鬼の一人である。大江山にて鬼達を束ねていた鬼の首領、酒呑童子の参謀、片腕であったという。⁴

2. 2 鬼とはどういった存在なのか

そもそも、酒呑童子や茨木童子をはじめとする「鬼」というものは実在したのか。もちろん、昔話に出てくるような、角と牙が生えた、寅柄のパンツをはいているような鬼を想像するのは現実的ではない。日本では自然災害などの災害から、妖怪、もののけの類の一つとして「鬼」が語られていた。そういったベースがある中で、突如現れた外国人や異文化との接触にともない、言葉も通じず、人相も見慣れないため、外国人が「鬼」として広まったのではないかという説がある。

だが、今回の「鬼」である酒呑童子や茨木童子については、出生地が複数存在しているにせよ、生まれた地が伝わっている。これも創作であるといえればそれまでであるが、生家として伝わっている地以外でも様々な酒呑童子や茨木童子に纏わる話が伝わる場所が存在している為、その可能性は低い。そう考えていくと、酒呑童子や茨木童子のモデルとなった人物がいて、伝説として語り継がれるにあたり、酒呑童子や茨木童子の「鬼」としてアレンジが加わったと考えられる。人間同士の殺し合いという話であるより、鬼退治というように勢力図を正義と悪という形で明確にしておいた方が勧善懲悪という日本人にとって親しみやすい内容にすることができ、かつ伝承しやすくなっていく。そういった意味でも、茨木童子に関する伝承というのは非常に興味深いものがある。

2. 3 栃尾に伝わる茨木童子の言い伝え

茨木童子の生誕の地として伝わっている場所の一つが新潟県長岡市軽井沢地区である。長岡市による吸収合併前の地名でいうと、栃尾市軽井沢、つまり栃尾地域で生まれたとされる説がある。ちなみに、大阪府茨木市が出生地であるとする説もあるようだ。⁵ 栃尾軽井沢地区の「茨木童子の里」には、以前「木彫りの子鬼を祀った祠」と「稚児清水湧水」が存在していた。しかし、雪で壊れてしまい、管理が行き届かない現状から立て直しも頓挫してしまった。

そもそも、茨木童子の里に祀ってあった祠は、約 15 年前に村を盛り上げようと立てたもので、歴史があまり古くない。茨木童子の里があった地域には、茨木童子が誕生した生家があったという場所が存在している。その為、祠自体の歴史は浅かったといっても、言い伝え自体は確かに伝わっていることがわかる。

⁴ [参考文献] 「茨木童子 (イバラキドウジ) とは」 コトバンク
<https://kotobank.jp/word/%E8%8C%A8%E6%9C%A8%E7%AB%A5%E5%AD%90-435546> (2015.11.19 閲覧)

⁵ [参考文献] 「歴史・文化 | 観光スポット | 観光情報 | 茨木市観光協会 探検！発見！いばらき観光」 <http://www.ibaraki-kankou.or.jp/kanko/kanko/rekisi.html> (2015.11.19 閲覧)

2. 4 茨木童子に関する祭「鬼ぎりまつり」

過去には、茨木童子の「鬼」と「おに」ぎりをかけた、「鬼ぎりまつり」が行われていた。鬼ぎりまつりでは、大きなおにぎりや、童子汁、あぶらげなどが売られ、参拝に来るお客さんもいた。⁶ しかし、祠が壊れてしまったこともあり、5、6年前から祭は行われていない。

2. 5 新潟県以外に伝わる茨木童子の伝説

前述した別の説である大阪府茨木市では、茨木童子の像を作り、市のマスコットキャラクターのように扱い、多くの人の目にとまるようになっている。⁵ 茨木市に伝わる茨木童子に関する伝説では、「茨木童子は水尾村（現在の茨木市）にて生まれたが、幼児期に九頭神の森（現在の新庄町東部）近くにある床屋の前に捨てられてしまう。床屋の主人がその子を拾い大事に育て、床屋の仕事を教え込んだのだが、童子が剃刀で客の顔を切って、客の顔の血をぺろりとなめてしまい、一度血の味を知った童子は、以後わざと客に傷をつけて血をなめるようになってしまいました。しばらく後、顔を洗いに近くの小川に行き、橋の上から水面を見ると、自分の顔が鬼の相になって映っており、童子は驚き、店には帰らず、その後大江山の酒呑童子の配下となった。」⁷ とあり、こういった伝説が語り継がれている。

2. 6 茨木童子の出生地の根拠

栃尾軽井沢の説では、下記文献のサイトによると、「出生について、越後は古志郡の山奥の軽井沢に生まれ弥彦神社に預けられたという。同地には茨木童子を祀る祠があり、茨木姓も多く、茨木姓の家では節分に豆をまかない習わしなどもある。また酒呑童子と相撲を取ったという場所もある。」⁸ とある。茨木童子が仕えていたと伝わる酒呑童子が茨木童子と同じ越後出身であると伝わっていることを考えると、鬼たちの本拠地であった大江山の場所が京都のあたりではないかと言われていることを差し引いても、軽井沢が茨木童子の出生地であったのではないかと、とする説のほうが信憑性が高いといえる。

2. 7 地域おこしとしての茨木童子

信憑性の高さに関わらず、地域おこし的な面では、茨木市の方が茨木童子のマスコットキャラクターを作り盛り上げるなど、力強い印象を受ける。立地条件的な問題でも、茨木市は大阪府にあり、観光客の人数も多い。だが、栃尾軽井沢は、かなり山の奥に入ったところにあり、茨木童子にまつわる建物はほとんど残っておらず、観光客の人数も少ない現

⁶ [参考文献] 「鬼ぎりまつり」長岡の迷所 <http://nagaoka.rgr.jp/ibent/onigiri/> (2015.11.19 閲覧)

⁷ [引用文献] 「茨木童子のおはなし」株式会社三島コーポレーション <http://www.mishima-corp.co.jp/sumitaimachi/ibaraki/ibarakidoji/ibarakidoji.htm> (2015.11.19 閲覧)

⁸ [引用文献] 「茨木童子」 <http://www13.plala.or.jp/Ragnarok2/file/ibaraki.htm> (2015.11.19 閲覧)

状がある。

鬼ざりまつりを開催したり、木彫りの子鬼を祀った祠を建てたりと地域の売りになる要素を作り出し、アピールをしていったものの、成果は振るわなかった。

前述の、「木彫りの子鬼を祀った祠」と「稚児清水湧水」を建て、PR していこうという流れとしては悪くなかったのであろうが、管理が難しいという苦しい状況では長く続かなかった様子が窺える。もう一度同じ方法を取るとしても、管理状況を改善しない限りは同じ顛末になってしまう。

2. 8 「茨木童子の里」地域おこしの改善案

現在、茨木童子の里は、再開の目途が立っていない。だが、もしもう一度、地域おこしに取り組むとすれば、どういったアプローチの方法があるか。

茨木童子といえば、酒呑童子と対をなす存在で、近年はゲームや書籍などにおいて見かけることがある。こういった状況を活かして、上手く PR していくことができないか。

そういった方面から見ると近年、全国の様々な地域でみられる、アニメキャラクターとのコラボレーション、または、イメージイラストを作成して PR することはどうであろうか。

「茨木童子」といっても、どういった外見をしているかというのは、普通の人にはイメージがしづらい。そういった問題を抱えている為、目視化出来るイラスト化や、茨木童子を扱ったアニメとのコラボレーションは認知度を高める効果がある。ネームバリューが決して悪いものではないからこそ、アピール材料にしていくことができる。



図 2

茨木童子の里があった場所。
現在は何も残っていない。

3. 菅原道真

3. 1 菅原道真公と菅原神社

菅原神社といえば菅原道真公を天満大自在天神、天満天神として神格化し、祀っている神社である。全国にも多数存在しており、天満宮、菅原神社という名で呼ばれている。菅原道真公といえば、学問の神様としても有名で、受験シーズンになると多くの受験生が参拝に訪れる神社でもある。菅原道真公が天満大自在天神、天満天神として神格化された理由は、菅原道真の死後、京の都において雷をはじめとした天変地異が多発したため、朝廷に対して祟りをなしたため、それを鎮めるためであったといわれている。

3. 2 栃尾の菅原神社の由来

栃尾の菅原神社が建てられた理由もこれに似ている。栃尾の菅原神社が存在している地域の名前は上来伝という。上来伝は村の開拓初日に落雷があったため、開拓成就の吉祥として雷田という名前がついた。それが現在までに、雷田という漢字から来伝という漢字に変わっている。そのときの落雷から、前述の天満大自在天神、つまり菅原道真公である天神様が祀られているという由来がある。

3. 3 菅原道真公に関係のある神社

栃尾の菅原神社が建造された理由は先に述べた通りだが、同じく菅原道真公が祀られている神社の由来にはどういったものがあるのだろうか。例をあげてみると、北野天満宮は、菅原の道真公が無実の罪で配流され大宰府で没した後に、都で相次いでおこる災害を道真公の祟りであるとし、そういったことをきっかけとして建てられた社殿である。祀られている神様は菅原道真公を主として、道真公の長子の菅原高視と菅原道真公の正室だけである。⁹ そのため、北野天満宮は特に菅原道真公とつながりが強い神社であるといえる。

さらに、湯島天満宮は雄略天皇の勅令により天手力雄神命（タヂカラヲノミコト）を祀る神社として創建されたそうだ。ちなみに天手力雄神命とは、日本書紀において、天照大神が岩戸に隠れてしまったが、岩戸から顔を覗かせた際に岩戸から引きずり出した神といわれており、非常に力がある神として有名で、スポーツの神としても信仰されている。湯島天満宮は、はじめはその天手力雄神命を祀る神社であったが、のちに住民の請願により、菅原道真を勧請して共に祀られるようになった。¹⁰ 勧請とは分霊を他の神社に移すことをいい、分霊してももとの神霊には影響はなく、分霊も本社神霊と同じ働きをされるといわれている。今回の場合であれば、菅原道真公を分霊し、湯島天満宮でその菅原道真公の神霊を祀ることになったわけである。

⁹ [参考文献] 「北野天満宮」京都通百科事典

<http://www.xn--1lq080npta.jp/Jinjya/KitanoTenmanGuu.html> (2015.11.19 閲覧)

¹⁰ [参考文献] 「湯島天満宮 (湯島天神)」

<http://www.zoeji.com/01meguri/01meguri-tonai/01-ty1-yusima/01-ty1-yusima.html> (2015.11.19 閲覧)

3. 4 栃尾の菅原神社の特徴

栃尾の菅原神社は、実績として、上来伝地域では、日本の名僧大崎行智師、椿精一博士、大崎仁元文化庁長官などの知識人を輩出している。また、「ごを書く石」の合格神社としてマスコミに多数とりあげられ、市内外はもとより、全国的にその名が知れ渡るようになった。

「ごを書く石」とは、「ごを書く」と「ごうかく」をしゃれたもので、ごを書いた石を菅原道真公の像の周りに供える。この取組みは、地域おこしとして始まったものだという。

上来伝地区自体がかなり市街地からはなれているところにあるが、合格祈願の絵馬が多く見られる。

3. 5 栃尾の菅原神社の観光客

栃尾の菅原神社は、域外から少なくとも毎年 1,000 人以上の観光客が来るといふ。その人数の主な割合を占めているのが、毎年 11 月第 4 日曜日に行われる来伝天神合格祈願祭である。栃尾の中心市街地から離れた上来伝地域にありながら、これだけの人数の観光客が訪れるというのは注目に値する。

栃尾の菅原神社については、前述の「ごを書く石」という地域おこしの点でも、他にない珍しいもので、関心をひかれる。全国に菅原神社は多数あるなかで、毎年一定の人数が参拝に来る観光客がいるということは、PRの成功例といえるだろう。



図 3

菅原神社にたっている菅原道真公の像。沢山の石が見えるのは参拝客によって書かれた「ご」の字が書かれた石。

4. ほだれ大神

4. 1 ほだれ大神に関する調査

「ほだれ大神」は下来伝地区にあり、同地区の公民館すぐ近くの道路の脇にある。小さな建物の中に男性器の形をかたどったものがまつてあり、建物のそばにも同じ形をしたものがいくつもまつられている。

今までにあげてきた建造物や伝承の中では、最も知名度が高いであろう伝承がほだれ大神である。ほだれ大神は栃尾地域の道祖神である。道祖神は、厄災の侵入防止や子孫繁栄等の祈願のため、近年では旅の無事や交通安全など、村の守り神として主に道の辻に祀られている民間信仰の石仏であり、自然石や石像、石碑など様々な形をしている。一言で道祖神といっても、全国に様々な種類が存在しており、カテゴリー名として道祖神という呼び名があるわけで、様々な神様がまつられている。そのため、栃尾地域の道祖神であるほだれ大神も他の例にもれることなく、道路のすぐそばにまつられている。

4. 2 ほだれ大神とは

ほだれ大神は、他の道祖神に比べても奇抜な形をしており、男性の性器の形を模している。こういった印象的な形のおかげか、ほだれ大神に関する祭りで、越後の奇祭といわれる「ほだれ祭」では多くの観光客が訪れている。筆者自身も、ネットで男性器を模した木製の大きな棒に女性が跨っている祭の様子を見たことがあり、印象に残っている。「ほだれ」とは「穂垂れ」の意味で、稲や粟がたわわに実り穂先が垂れる形に由来する言葉であり、子孫繁栄を守る神様でもある。¹¹ という。

4. 3 ほだれ大神に関する記述

栃尾市史編集委員会が昭和 47 年 5 月 31 日に発行した『栃尾市史・史料集（第四集）民俗編（I）』を参照した所、道祖神に関する非常に興味深い記述が見つかった。それには、「昔は 9 月 15 日以外の日に 3 メートル程の棒を道祖神の鎮座する付近の杉の二俣に挟んで供えた。しかし、明治の頃に、風俗取締りによって挟んだ棒は取りはずした。また、戦前、雄杉と雌杉があったが、ある者が雄杉を伐採してしまい、それ以来その家では火災やハント（配偶者のいないもの）が増えたり、本人は満足な死に方もできず、あるいは性器のない男の子が生まれたりしたので道祖神には男根を供えることになったという。道祖神は耳の遠い人が穴の開いた石を供えると治くなると言い、また子供のできない人や下の病気の人は男根や「奉納道祖神」と書いた紅白の旗を供え、難産の人はアカシ（灯火）や賽銭を供えてお詣りした。北海道から真鍮製の男根を送ってくる人もいた。」¹² という記述があった。栃尾に存在している道祖神は何種類かあるため、これらのご利益がすべてほだれ大神に関することであるとは考えがたい。この資料には、ほだれ大神という単語がでてきては

¹¹[引用文献] 「ほだれ大神 新潟県-長岡市/神社仏閣」 komachi Web

<http://www.week.co.jp/kankou/%E3%81%BB%E3%81%A0%E3%82%8C%E5%A4%A7%E7%A5%9E/> (2015.11.19 閲覧)

¹²[引用文献] 栃尾市史編集委員会(1972)『栃尾市史・史料集（第四集）民俗編（I）』栃尾市史編集委員会発行, p.50-51

いなかったが、「男根を供えるようになった」という記述や、子供ができない人や下の病気の人は男根や「奉納道祖神」と書いた紅白の旗を供えたという記述については、実際にはほだれ大神が祀られている祠のまわりには多くの男根が供えられているという共通点が見られるため、ほだれ大神に関わることであるように受け取ることができる。

4. 4 全国に存在する性器崇拝「田縣神社」と「大縣神社」

日本では他の地域でも男根信仰がされている地域がある。愛知県小牧市にある「田縣神社」は、御歳神（オオトシノカミ）と玉姫神を祭神としている。御歳神は食物と関わりが深い神様で、五穀豊穡を司っている。玉姫神は子宝に恵まれたという伝承から、子宝の神として祀られている。¹³ この二神は栃尾のほだれ大神とは異なり、道祖神ではないが、子供や農耕にまつわる神様であるという点では類似している。人間が誕生することに直接かわってくる性器の形を模して神様として崇めるというのは、直接的ではあるが分かりやすい。田縣神社では豊年祭が行われており、その豊年祭では男性が「大男茎形」（おおおわせがた）と呼ばれる男根をかたどった神輿を担いで練り歩き、小ぶりの男根をかたどったものを巫女たちが抱えて練り歩く。ほだれ大神も、「とちお祭」のみこし渡御において、男性の性器の形を模した神輿がかつがれており、また、前述のようにほだれ祭で男性器をかたどったものが担がれていた。

そして、愛知県犬山市には「大縣神社」があり、境内にいくつかある境内社のうちの一つに姫の宮がある。田縣神社とおなじ玉姫神が祀られており、安産・子授など女性の守護神として崇敬され、女陰をかたどった石などが奉納されている。¹⁴ 田縣神社は大縣神社と対になっているのである。一方、栃尾地域では男性の性器をかたどったもののみを祀っている。

全国的に存在している生殖器信仰は女性器をかたどったものより、男性器をかたどったものの割合が多い。やはり昔の男性中心の社会であったことが関係しているのかもしれない。

4. 5 巻堀神社の金勢様

他にも、栃尾のほだれ大神に近い神様が存在している。それは、岩手県巻堀神社で祀られていた、金勢様（金精様、神ともいう）である。「祀られていた」というのは、現在巻堀神社で祭神となっているのはサルタヒコノミコトとイザナギノミコトであるからである。祭神が変わった背景には、明治時代に政府が行った大教宣布という天皇に神格を与え、天皇中心の神道を進めるため、古くから伝わる信仰を禁止して、上記の二神を祀る様になったのではないかとされている。¹⁵ この二神は、天皇の祖神であるとされるアマテラスオ

¹³[参考文献] 「御祭神・由緒」田縣神社公式サイト
<http://www.tagatajinja.com/pg17.html> (2015.11.19 閲覧)

¹⁴[参考文献] (2007.6.19)「女性の守護神は姫の岩・その形は...一大縣神社」TOPPY.NET
<http://toppy.net/tour/070619.html> (2015.11.19 閲覧)

¹⁵[参考文献] 「巻堀神社（岩手県盛岡市玉山区）」
<http://blogs.yahoo.co.jp/kazuki133/37811735.html> (2015.11.19 閲覧)

オミカミと非常に関わりが深い神であるため、大教宣布で祀られるようになっていったのも頷ける。金勢様は、男根信仰と道祖神信仰が混ざり合った神様であり、形はほだれ大神と同じ男根を模したものとなっている。

この「男根信仰」「道祖神信仰」という二点がほだれ大神と共通している。異なっている点は、金勢様が全国的に広い範囲で祀られていること、地域によっては婦人病、子供の寝小便に効くと伝わっている地域が存在しているところである。同じような形をご神体としていても、地域によって差異がみられるのは非常に興味深い。

4. 6 ほだれ祭

ほだれ祭に関しては、ツアーなども開催されており、定員人数を満たして満員御礼になっているなど、栃尾に多くある祭の中でも、特に注目されている祭の一つだ。道祖神というと道路の脇にひっそりと佇んでいるイメージがあるが、栃尾地域のように大々的に持ち上げているのは珍しいケースである。

とちお祭では、みこし渡御の際にほだれ大神を祀った神輿も担がれている。この神輿を担いでいたのは越後とちおほだれ舎という団体である。ほだれ様を神輿として担ぐことで、市外にも「とちお」と「とちおのほだれ」を知ってもらおうと結成された団体だ。

前述で例を挙げたように、全国にも性器崇拝は存在しているが、どれも個性的で、印象に残る。インパクトがあるものは、人をひき付ける力があるため、PR も行っていきやすい。そういったことから今もなお、ほだれ祭は賑わいを見せているのではないか。



図 4

とちお祭でのほだれ大神



図 5

ほだれ大神がまつられている祠。

5. 稲荷信仰

5. 1 栃尾に伝わる狐に関する信仰「稲荷信仰」

諏訪神社境内には、諏訪神社以外にも稲荷神社、琴平社、松尾社（醸造、酒造りの神）が存在している。この中でも、稲荷神社に関する「稲荷信仰」というものは、栃尾地域の中でも幅広い地域の中で行われてきたようだ。『栃尾市史・史料集（第十二集）民俗偏（Ⅲ）②』には、栃尾に伝わる伝説などが取り上げられているが、その中でも狐に化かされた話についての記述が4つほど載っている。¹⁶

また、『栃尾市史・史料集（第四集）民俗偏（1）』には、稲荷様に関する狐憑きについての記述を見付けることができた。その記述によれば、「狐憑きは、男女・年齢に関係なく、発狂することを言う。作の神である稲荷様へ子供が遊びに行つて狐に憑かれたことがあつた。狐に憑かれると、飛んで歩いたり、ソワソワ落ち着きがなくなり、訳の分からないことを言ったりする。その様な時は神官（御岳[屋号]または塩川の寺に頼む場合もある。）などにお祓いしてもらふ。以前、稲荷様を祀っていた家が狐憑きになつた。狐をいじめると、その人の家は、いたずらされる。また、タバコを吸うと狐に化かされないという。狐に憑かれた場合、大夫様（タイヨ）を頼んでお祓いをしてもらふ。」¹⁷ という。お稲荷様が全国的にたてられ、祀られているように、狐憑きに関する記述も全国に残っている。

5. 2 狐憑きとはなんなのか

狐憑きは、現代でいう精神疾患等の患者のことを指していたのだろうが、医学が発達していない時代では、普段とは違つた、狂つたような行動に出る人を見て、獣に憑かれてしまったと考えたほうが妥当であつたと考えられる。不可解な点があるとすれば、栃尾市史編集委員会発行の『栃尾市史・史料集（第四集）民俗偏（1）』の引用文の一節にある、「稲荷様へ子供が遊びに行つて狐に憑かれたことがあつた。」という部分である。果たして、稲荷様で遊んだだけで、狐憑きと呼ばれるような症状、現代で言う精神疾患のような症状を発症することがあるのか。また、「年齢も関係なく」という点にも疑問が残る。狐憑きになってしまう年齢が若い年齢であるとすれば、単に子供達がふざけていただけということも考えられるが、大人がふざけて狐憑きになつたような行動をするとは考えづらい。

5. 3 狐憑きの発症原因

不明な点も多いが、ここまでの分析から狐憑きの正体の仮説を立ててみるとすれば、それは、狐憑きは「思い込み」だつたのではないかということである。前述の通り、おそらく精神疾患からくる狐憑きもあつたであろう。しかし、それでは説明がし辛いケースにおいては、「思い込み」からきたものではないか。菅原道真公が天神として祀られる様になつた訳は、京都の都で天変地異が多発し、これが「菅原道真公の祟りである」としたからである。今でこそ信仰の対象とされているが、神として祀り上げられた当初は天神様に粗相

¹⁶[参考文献] 栃尾市史編集委員会(1975)『栃尾市史・史料集（第十二集）民俗偏（Ⅲ）②』栃尾市史編集委員会発行, p.18-20

¹⁷[引用文献] 栃尾市史編集委員会(1972)『栃尾市史・史料集（第四集）民俗偏（Ⅰ）』栃尾市史編集委員会発行, p.53

があつてはならないという「畏怖心」を人々は持っていた。こういった考えが稲荷様においても当てはまると考えると、稲荷様は村人にとって信仰の対象であったと同時に畏怖されている存在であり、稲荷様に崇られるという恐怖心から狐憑きになってしまったと思ひ込むケースがあつたのではないか。そう考えれば、子供が神社で遊んでふざけて罰当たりなことをしてしまい、後々崇られるのではないかと恐怖心から狐憑きになってしまったと思ひ込む可能性もある。思ひ込みで狐憑きになったのであるとすれば、村人の心の拠り所であつた神社や寺に行ってお祓いをしてもらうことで、憑き物がとれたと思ひ込むことも十分考えられる。

狐憑きになったという話が現代で聞かれないのは、科学が発達した反面、神様に対する恐怖心というものが薄れてしまったからという要因もあるのではないか。栃尾には菅原神社も存在しているという点が興味深いところである。また、昔は家庭によっては、家で稲荷様を祀っているケースも存在していたようだが、現代で家庭が稲荷様を祀っているという話はあまり聞かれない。こういった部分にも昔と現在の神様に対する考え方が変わってきた部分を感じることができる。



図 6

諏訪神社の境内社である稲荷神社。

6. 秋葉三尺坊

6. 1 秋葉三尺坊はどのように誕生したのか

「秋葉三尺坊」とは、人間が神様として祀られた存在である。言い伝えによると、778年に信州戸隠で生まれた周国という少年がいて、その少年は4歳の時に越後（新潟県）の蔵王権現に修行に行くほどの神童だったそうだ。周国はひたすら修行を続け、26歳のときには、修行僧が住む僧坊である、蔵王権現堂の十二坊のうちの一つを三尺坊と名付けて、更に精進を続けた。この「三尺坊」が秋葉三尺坊の名前の由来である。

そして、27歳の時に荒行満願の夜に法力により迦楼羅天（かるらてん）に神変した。周国が修行をした場所である蔵王堂こそが栃尾の岩野であつたという。その後、蔵王堂は寺泊に遷り、さらに長岡の蔵王に遷った。この蔵王の地名は蔵王権現に由来している。迦楼羅天はインド神話のガルダ（ガルーダ）を前身としている仏教の守護神である。

秋葉三尺坊の容貌は日本でいう天狗のような容貌であり、くちばしと羽を付けて剣を持った姿で描かれている。神変した周国の元に白狐が現れ、それに乗って809年に静岡県の

秋葉山に降り立ち、そこを安住の地としたそうだ。その後、大火から人を救った伝承などが広まり、秋葉信仰が形成されていった。¹⁸

6. 2 生前に神格化された例

秋葉三尺坊は人が神様になったと伝わっており、これは人神といえる。人神とは人間が生前または死後に神として祀られる信仰で、神人とも呼ばれる。人神になる人間としては、呪術師や祭司などの特殊な非日常的呪力を行使できる人間や異国人、一般的な人とは異なった身体障がい者など、様々である。死後に神に祀りあげられた例としては、崇り神として恐れられた、前述の菅原道真公や、徳川家存続の為に神格化され、東照大権現として祀られた徳川家康などが有名である。これらは死後に神格化されている。

秋葉三尺坊のように、生前から神として崇められていた例としては、仙台四郎という人が生前から「福の神」とよばれていた。仙台四郎（1855-1902）とは宮城県仙台市に実在した人物で、例えばインターネットで検索をかけると本人の画像を見ることができる。本名は芳賀四郎という。仙台四郎は、幼少のころ、川で流され意識不明になったことが原因で「知恵おくれ」になってしまい、周囲からは「しろばか（四郎馬鹿）」と呼ばれていたという。その後、仙台四郎は街を徘徊するようになり、店に箒があれば勝手に掃き掃除をしたり、ひしゃくがあれば勝手に水をまいたりしていた。そうしたところ、仙台四郎が掃除をしたお店は繁盛するという噂がたつようになり、不思議と実際に仙台四郎が立ち寄った店には客が多く入るようになったため、仙台四郎は「福の神」と呼ばれるようになっていった。このケースは前述のように、身体障がい者などが神様になるケースと近いものと思われる。また、仙台四郎はいつも笑顔で子供のようにあかるく、仙台四郎に抱いてもらった子供は健康に育ったとも言われていたという。

仙台四郎は 1902 年に 47 歳で亡くなったといわれているが諸説あり、明確な没年はわかっていない。仙台四郎を合わせて祀っている神社も存在しており、仙台市の三瀧山不動院や同じく仙台市にある朝日神社がある。仙台市では仙台四郎グッズがお土産屋で売られており、飲食店では、仙台四郎の写真や置物をみることができるという。長岡市内の飲食店でも、仙台四郎の写真を飾っているお店を見かけたことがあった。仙台四郎は秋葉三尺坊に比べると、たちよった店が繁盛する、抱いてもらった子供が健康に育つなど、神懸かり的な内容ではないが、生前のころから「福の神」として多くの人に持て囃されていたという。¹⁹ 話の規模の大きさは違うが、仙台四郎も生前に神になった人物の一人であるといえるし、江戸から明治にかけての比較的最近の話であるため、本人の写真も残っており、貴重な例であるといえる。

6. 3 栃尾の秋葉神社

秋葉神社は全国に多数存在しているが、栃尾の秋葉神社は「上杉謙信が天文 20 年（1551

¹⁸[参考文献] 「曹洞宗 秋葉山 館山寺:秋葉山信仰」
<http://kanzanji.jp/akihasan.html> (2015.11.19 閲覧)

¹⁹[参考文献] 「仙台四郎安置の寺・三瀧山不動院」
<http://www.mitakisan.com/shiro.html> (2015.11.19 閲覧)

年) 常安寺の守護神として日本総本廟越後秋葉三尺坊大権現を勧請し、別当般若院の寺領を開基の験として寄進した。」とある。²⁰ 「秋葉三尺坊威徳大権現を祀っており、遠州秋葉山と並び日本二大霊山となっており、「日本二社(総本廟)秋葉大権現」として一躍有名になった。」という。²¹

栃尾の秋葉神社には毎年 2,000~3,000 人の観光客が来訪している。その主な割合を占めているのが、「秋葉の火祭り」である。三尺坊の命日である、7月 24 日に毎年行われる。これだけでも十分な人数が来場しているが、今後、観光地として PR していくならばやはり、「日本二社(総本廟)秋葉大権現」という部分である。日本に存在する秋葉神社の古来の根本として認められているのである。それだけでなく、秋葉神社の社殿には、石川雲蝶の彫り物が彫られている。そういった部分もあわせて PR することで関心を示す人が増えていくことが期待できる。



図 7

秋葉公園にある秋葉神社。

7. 上杉謙信

7. 1 栃尾城跡

「栃尾城跡」へは、栃尾表町にある諏訪神社の境内の裏口から登ったところから行くことができる。山の頂上が本丸になっているわけだが、山道の途中には軍馬の訓練が行われていたという馬場跡や大空濠、将兵の訓練が行われていたという千人溜りがある。いずれの場所も草木が生い茂っており、千人溜りが平地に整えられているということ以外はわかりづらくなっている。山頂にある本丸自体はそれほど広くはないが、栃尾城跡の説明の看板があり、栃尾の中心街全体を見渡すことができる。

栃尾地域には「上杉謙信」に関する建築物がいくつかあり、栃尾城は、上杉謙信旗揚げの場所と言われている。筆者の出身地である上越市にも上杉謙信の居城であった春日山城があるが、長岡と上越といえればかなりの距離があるのにくわえ、当時は交通も不便であったであろうから、当時の人の行動力はかなりのものであったといえる。

²⁰[引用文献] 「名所旧跡 of 栃尾観光協会」

<http://tochiokankou.jp/meisyo/index.html> (2015.11.19 閲覧)

²¹[引用文献] 「秋葉神社と秋葉三尺坊 of 栃尾観光協会」

<http://tochiokankou.jp/rekishi/akiba.html> (2015.11.19 閲覧)

7. 2 上杉謙信の栃尾城入城までの経緯

長尾景虎（上杉謙信）は、長尾為景の四男として、上越の春日山城にて生まれたわけだが、天文 12（1543）年、景虎 14 歳の頃、古志郡に移り栃尾城に入城している。その後、栃尾城の戦いを経て、越後を統一した。景虎が栃尾城に入城することになったのは、景虎の兄、晴景が関係していた。長尾家の家督を相続したのは、長尾家の長男、長尾晴景であり、景虎（当時は虎千代）は林泉寺に入門させられていた。晴景は越後守護代になり、穏健な講和政策をとり、越後における争乱をある程度治めることには成功した。しかし、主君である上杉定実が実子がいなかったために起こった伊達氏との養子縁組問題の際に、晴景だけの力では中条氏らを抑えることができなかった。そうして越後の情勢は不穏になっていった。そんな中、林泉寺に入門していた景虎が還俗したことから、晴景の越後国内支配を強化するという役割を果たすため、景虎は古志郡に移り、栃尾城に入城することになったのである。

7. 3 上杉謙信の旗揚げ

栃尾城の戦いは、景虎が 15 歳の頃に起きた。晴景を侮り、景虎を若年であるとみて越後の豪族たちが謀反を起こし、栃尾城を攻めたのである。しかし、景虎の策略により、敵を壊滅させ、謀反を鎮圧することに成功した。その後、上杉家の家臣であった黒田秀忠が謀反を起こした際、景虎は上杉定実から討伐を命じられ、秀忠を降伏させ、翌年、またも秀忠が兵を挙げた際には黒田氏を滅ぼすことに成功した。そんな景虎の武勇を見てか、日ごろ晴景に不満をもっていた国人の一部が景虎を擁立したため、晴景と景虎の関係は険悪なものとなっていった。天文 17（1548）年には晴景派と景虎派が明確になり、対立が激しくなったが、上杉定実の調停のもと、晴景は景虎を養子とした上で家督を譲り、景虎は春日山城に入り、19 歳で家督を相続し、守護代となった。これらのことから、栃尾城は上杉謙信が青年期を過ごすことになった城であったといえる。

その後、謙信没後に起こった上杉家の家督相続をめぐるお家騒動の「御館の乱」が、上杉景勝と上杉景虎の両名の間で起こった際には、景虎方についていた本庄秀綱が入城しており、上杉景勝方に抵抗を示したが、1580 年に落城した。1598 年には上杉が会津に移封し、代わって堀氏が越後国を治めていた。栃尾城には、堀秀治の家臣である神子田政友が入城していたが、堀氏の没落に伴い、1610 年には廃城になってしまった。^{22 23}

長尾晴景と長尾景虎の対立、上杉景勝と上杉景虎の対立、から伺えるように、長尾氏、上杉氏では家督相続問題が目立っている。相続問題が起こった際に、栃尾城は重要な役割を果たしているように感じられる。上杉謙信が頭角を現し、旗揚げをした城であり、重要な城であるが、あまり知られていないように感じる。上杉景虎方について本庄秀綱が入城していたということと合わせて、より多くの人に知ってもらえれば良いのではないか。

²²[参考文献] 栃尾市史編集委員会(1977)「栃尾市史上巻」栃尾市役所 p267-268

²³[参考文献] 「上杉謙信・長尾景虎・上杉景虎の人物像に迫る-戦国武将」

<http://senjp.com/kenshin/> (2015.11.19 閲覧)



図 8

諏訪神社裏手からの登り口にある、栃尾城跡図。



図 9

栃尾城跡からの眺め。
栃尾地域が一望できる。

Ⅲ 栃尾をより良くするために ～観光地としての栃尾～

1. 観光客を呼び込むためには

栃尾地域の中でも、建造物や伝説について、観光客が多いところと、少ないところが明確にわかれていることが以上のことからわかる。観光客を呼び込んでいくためにはどういった工夫が必要であろうか。それは、観光客が多いところと少ないところを比べてみることで見えてくる。

2. 観光客増加への取り組み① ～ツアー企画の体制整備～

前述の通り、栃尾には様々な建築物が存在しているため、これを活かすには、いくつかの建造物を巡るツアーのようなものを企画するのはどうであろうか。観光客が自分自身で巡るのもいいと思うが、現地住民でなければわかりづらい場所にある建造物（特に静御前の墓はネームバリューの割には分かりづらく感じた）には行くことが難しいであろう。また、栃尾に実際に調査に向かってみてわかったことだが、栃尾地域は思いのほか広く、広い地域に渡って建築物が建てられているため、移動には車が必須である。そういったことを考えるとツアーという形式のほうが観光客側としても楽に回ることができるであろう。

また、それぞれの建造物について解説できる人が一緒に回ってあげることで、建築物にたいする理解を増すことができる。特に秋葉神社などは、全国でも由緒ある「日本二社(総本廟)秋葉大権現」であるにも関わらず、地名度が低いように感じる。ツアーの参加者がそれぞれの建造物や伝説に関する理解を深めてもらうことができれば、クチコミによる情報

の拡散も期待することができる。観光客を受け入れる側の体制を整えていくことが、今後重要視されることなのではないだろうか。

3. 観光客増加への取り組み② ～祭りに合わせての宣伝～

他に PR 活動を行うとすれば、栃尾の「祭り」に合わせて宣伝をすることだ。これまで取り上げてきた観光資源の中で、比較的年間観光客が多いものは、菅原神社、ほだれ大神、秋葉神社である。さらに、それぞれの建造物に纏わる祭が毎年行われている。これらの祭りには栃尾地域の外からも足を運ぶ人が多い。そういった人達に栃尾地域の建造物について書かれたリーフレットやパンフレットを配布することで、建造物の存在を知ってもらうことができる。栃尾の祭りの会場で配布することで、その日のうちに行ってみようと思うお客さんもいるであろうし、当日に観光に行こうと思わなかったとしても、栃尾の祭りには来ているのだから、後日改めて観光として来てくれる可能性がある。そういった所から口コミで広まり、観光客の客足を伸ばすことにつながっていくのではないかと。

4. 観光客増加への取り組み③ ～建造物の印象に残る工夫～

観光客が多い建造物では、祭りも行われている。茨木童子の里で行われていた、「鬼ぎりまつり」のように上手くいかないおそれもはらんではいるが、成功すれば多くの観光客増加が期待できる。ここで重要になってくるのが単純に祭りを行えばいいということではないということだ。菅原神社の「ごを書く石」、ほだれ大神の「男性器をかたどった像」、秋葉神社の「火渡りを行う秋葉の火祭り」と、どれも印象に残る特長を持っている。なかでも「ごを書く石」とほだれ大神の祠にまつられている「男性器をかたどった像」は、地域おこしの一環として作られたもので、それほど古いものではない。しかし、「男性器をかたどった像」という珍しさから、観光客の印象に残りやすく、行ってみようという気にさせる要因の一つになる。これらに習い、他の建造物に纏わる祭りを印象に残る形で工夫をこらして行ってみることが、地域おこしにつながっていくのではないかと。

■引用文献・参考文献一覧

- 1 [引用文献] 「静御前と鈴ヶ神社」
<http://sky.geocities.jp/shizukagozenmaihime/top01.htm> (2015.11.19 閲覧)
- 2 [引用文献] 「静御前の墓・静桜」久喜市観光協会
http://www.kurihashi-guide.jp/cn_tour_guide/sizuka.html (2015.11.19 閲覧)
- 3 [参考文献] (2015.4.1) 「源 義経の愛妾「静御前の墓」」長岡市ウェブサイト
<http://www.city.nagaoka.niigata.jp/kankou/rekishi/shiseki/sizukagozen.html> (2015.11.19 閲覧)
- 4 [参考文献] 「茨木童子 (イバラキドウジ) とは」コトバンク
<https://kotobank.jp/word/%E8%8C%A8%E6%9C%A8%E7%AB%A5%E5%AD%90-435546> (2015.11.19 閲覧)
- 5 [参考文献] 「歴史・文化 | 観光スポット | 観光情報 | 茨木市観光協会 探検！発見！いばらき観光」<http://www.ibaraki-kankou.or.jp/kanko/kanko/rekisi.html> (2015.11.19 閲覧)
- 6 [参考文献] 「鬼ぎりまつり」長岡の迷所 <http://nagaoka.rgr.jp/ibent/onigiri/> (2015.11.19 閲覧)
- 7 [引用文献] 「茨木童子のおはなし」株式会社三島コーポレーション
<http://www.mishima-corp.co.jp/sumitaimachi/ibaraki/ibarakidoji/ibarakidoji.htm> (2015.11.19 閲覧)
- 8 [引用文献] 「茨木童子」
<http://www13.plala.or.jp/Ragnarok2/file/ibaraki.htm> (2015.11.19 閲覧)
- 9 [参考文献] 「北野天満宮」京都通百科事典
<http://www.xn--1lq080npta.jp/Jinjya/KitanoTenmanGuu.html> (2015.11.19 閲覧)
- 10 [参考文献] 「湯島天満宮 (湯島天神)」
<http://www.zoeji.com/01meguri/01meguri-tonai/01-ty1-yusima/01-ty1-yusima.html> (2015.11.19 閲覧)
- 11 [引用文献] 「ほだれ大神 新潟県-長岡市/神社仏閣」komachi Web
<http://www.week.co.jp/kankou/%E3%81%BB%E3%81%A0%E3%82%8C%E5%A4%A7%E7%A5%9E/> (2015.11.19 閲覧)
- 12 [引用文献] 栃尾市史編集委員会(1972)『栃尾市史・史料集 (第四集) 民俗偏 (I)』栃尾市史編集委員会発行, p.50-51
- 13 [参考文献] 「御祭神・由緒」田縣神社公式サイト
<http://www.tagatajinja.com/pg17.html> (2015.11.19 閲覧)
- 14 [参考文献] (2007.6.19) 「女性の守護神は姫の岩・その形は...一大縣神社」TOPPY.NET
<http://toppy.net/tour/070619.html> (2015.11.19 閲覧)
- 15 [参考文献] 「巻堀神社 (岩手県盛岡市玉山区)」
<http://blogs.yahoo.co.jp/kazuki133/37811735.html> (2015.11.19 閲覧)
- 16 [参考文献] 栃尾市史編集委員会(1975)『栃尾市史・史料集 (第十二集) 民俗偏 (III) ②』栃尾市史編集委員会発行, p.18-20
- 17 [引用文献] 栃尾市史編集委員会(1972)『栃尾市史・史料集 (第四集) 民俗偏 (I)』栃尾市史編集委員会発行, p.53
- 18 [参考文献] 「曹洞宗 秋葉山 館山寺:秋葉山信仰」
<http://kanzanji.jp/akihasan.html> (2015.11.19 閲覧)
- 19 [参考文献] 「仙台四郎安置の寺・三瀧山不動院」
<http://www.mitakisan.com/shiro.html> (2015.11.19 閲覧)
- 20 [引用文献] 「名所旧跡 of 栃尾観光協会」
<http://tochiokankou.jp/meisyo/index.html> (2015.11.19 閲覧)
- 21 [引用文献] 「秋葉神社と秋葉三尺坊 of 栃尾観光協会」
<http://tochiokankou.jp/rekishi/akiba.html> (2015.11.19 閲覧)
- 22 [参考文献] 栃尾市史編集委員会(1977)「栃尾市史上巻」栃尾市役所 p267-268
- 23 [参考文献] 「上杉謙信・長尾景虎・上杉景虎の人物像に迫る-戦国武将」
<http://senjp.com/kenshin/> (2015.11.19 閲覧)